

編集後記

ここ数年、ガジェット類について、編集後記に記している。書き始めた発端は、研究者には、そうじて、コンピューターやその周辺機器類について詳しい人がおおいということにあった。それでは、今号でも、現状と未来を予想してみよう。

今回は趣向を変えて、イノベーションの根幹部分について触れてみたい。よくIT革命だとか第〇次産業革命などと呼称するが、いままでのそうしたものは、まったくそれにあらず、名前だけ立派で中身の無いものであった。そこまで来ていて、それが実現すると、世の中ががらりと変わるイノベーションは、タイヤがなくなる日と、手ぶらになる日の到来である。後者については、前号までの編集後記にさんざん書いてきたが、前者は空飛ぶ自動車ともまたちがう。もちろん自動車が空を飛んだら、今までの道路などのインフラは一瞬にして価値を下げ、空というあらたな空間に莫大なインフラ投資をしなければならない。ソフトウェア中心となり、産業界の力関係もがらりと変化するのは容易に想像できる。ただ、皆が築いてないそれだけではないことがある。これより先は、私の論文や記事を読んで楽しんでもらいたい。

さて、本誌に投稿いただきました著者の皆様に、編集責任者として感謝申し上げます。今年度後も、ますます予測が不可能なことが、次々と起こることになると思います。来年度の本誌は、国際経営研究所が、みなとみらいキャンパスに移転してはじめての号となります。ささやかな変化も予定していますので、心ワクワク楽しんでもらえたらと思います。

編集委員長 小島 大徳